

# エコアクション 21

## 環境活動レポート

令和元年 8月～令和2年 7月

365日  
いつでも  
巡回点検営業



有限会社 宮城総合エンジニア

作成日：令和2年9月

## ● はじめに ●

当社は、一般廃棄物収集運搬業及び浄化槽保守点検業、清掃業、排水管高圧洗浄作業、貯水槽清掃業等の業務を通じて、社員一丸となり地域のお客様の浄化槽よりきれいな処理水を放流することで、水環境及び水資源を守る事を使命と考え、社員一人一人がレベルアップすべく活動しており地域の環境保全により一層貢献して参ります。

なお、本レポートは2019年8月から2020年7月の1年間の活動状況をまとめたものです。

## ● 環境方針 ●

### 環 境 方 針

#### 基本理念

私たちは、常に奉仕の精神をもって作業を行い、親切丁寧を旨にお客様に接し、絶大な信頼のもと「地域に無くてはならない事業所」になります。

そのため、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であることを強く再認識し、「地域に無くてはならない事業所」になるための最優先事項として、企業活動のあらゆる面で地球環境の健全性の保全に配慮して行動します。

#### 基本方針

当社は、浄化槽保守管理・清掃、一般汲取、排水管清掃、貯水槽清掃の業務を行うに当たり、地球規模の環境及び地域の環境に関わりが強いことを強く認識し、自然環境と調和した循環型社会の実現の為、以下に掲げる環境活動を推進します。

- 1 資源・エネルギー及び廃棄物の抑制  
資源とエネルギーの消費、廃棄物の排出状況などを把握して、省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制等の環境に与える負荷の低減を継続的に実施して行く環境保全活動に、自主的、積極的に取り組むことにより、社会に貢献します。
- 2 環境マネジメントシステムの確立  
省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制等を行う為、環境マネジメントシステムを確立し、見直しを行って、その継続的な改善及び環境汚染の予防を行い維持します。
- 3 環境関連諸法規の遵守  
関連する環境の法規、条例及びその他の規制事項を遵守します。
- 4 地域社会への貢献  
地域社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。
- 5 環境コミュニケーションの推進  
環境活動レポートを当社に備え付け、地域や関係する利害関係者の人々からの要求に応じ配布・公表し、社内外への情報提供を行うことによって、積極的な環境コミュニケーションに取り組めます。

2011年 8月1日 制定

2014年 3月1日 改正

有限会社 宮城総合エンジニア  
代表取締役 山川 敬子



## ●事業概要●

### (1) 社名及び代表者名

有限会社宮城総合エンジニア 代表取締役 山川 敬子

### (2) 所在地

#### ① 本社

〒989-1245 宮城県柴田郡大河原町字新南69番地の4

TEL 0224-52-1525 FAX 0224-52-4474

#### ② 角田支店

〒981-1521 宮城県角田市江尻字堤131

TEL 0224-68-2848

#### ③ 白石営業所

〒989-0217 宮城県白石市大平森合字幕ノ内23-1

TEL 0224-25-5743

#### ④ 柴田営業所

〒989-1604 宮城県柴田郡柴田町船岡東2丁目3-8-2

TEL 0224-57-2357

### (3) 環境保全関係の責任者・担当者及び事務局連絡先

環境管理責任者 紺野 秀幸

環境管理事務局 岸浪 恵

[連絡先] 〒989-1245 宮城県柴田郡大河原町字新南69番地の4

TEL 0224-52-1525 FAX 0224-52-4474

#### (4) 事業内容

- ・ 浄化槽保守点検業
- ・ 一般廃棄物（し尿・浄化槽汚泥）収集運搬業及び浄化槽清掃業
- ・ 排水管清掃業
- ・ 貯水槽清掃業

#### (5) 事業の規模

設立年月日：昭和59年11月21日

資本金：600万円

従業員数：15名

処理実績：一般廃棄物（し尿・浄化槽汚泥）収集運搬量

年間合計 8,800.1 m<sup>3</sup> (2019年8月～2020年7月)

#### (6) 許可の内容

● 浄化槽保守点検業 宮城県登録 宮63保守第27号

平成30年12月26日登録 令和3年12月25日まで

● 一般廃棄物（し尿・浄化槽汚泥）収集運搬業及び浄化槽清掃業

市町村名	一般廃棄物収集運搬業	浄化槽清掃業
大河原町	許可第13号（浄化槽汚泥） 平成31年3月25日許可 令和3年3月31日まで	許可第4号 平成31年3月25日許可 令和3年3月31日まで
柴田町	第622号（浄化槽汚泥） 平成31年3月11日許可 令和3年3月31日まで	第622号 平成31年3月11日許可 令和3年3月31日まで
白石市	白石市指令第59号 （浄化槽汚泥・し尿） 令和2年2月5日許可 令和4年3月31日まで	白石市指令第60号 令和2年2月5日許可 令和4年3月31日まで
七ヶ宿町	七ヶ宿町指令第12号 （浄化槽汚泥・し尿） 平成31年2月27日許可 令和3年3月31日まで	七ヶ宿町指令第13号 平成31年2月27日許可 令和3年3月31日まで

市町村名	一般廃棄物収集運搬業	浄化槽清掃業
蔵王町	蔵王町指令第439号 (浄化槽汚泥) 平成31年2月28日許可 令和3年3月31日まで	蔵王町指令第440号 平成31年2月28日許可 令和3年3月31日まで
丸森町	丸森町指令第650号 (浄化槽汚泥・し尿) 令和2年2月3日許可 令和4年3月31日まで	丸森町指令第734号 令和2年2月25日許可 令和4年3月31日まで
村田町		村田町指令第273号 平成31年3月12日許可 令和3年3月31日まで
角田市	角田市指令第654号 (浄化槽汚泥・し尿) 令和2年1月22日許可 令和4年3月31日まで	角田市指令第799号 平成31年3月5日許可 令和3年3月31日まで
亘理町	亘理町指令第232号 (浄化槽汚泥) 平成31年4月15日許可 令和3年5月9日まで	亘理町指令第233号 平成31年4月15日許可 令和3年5月9日まで
山元町	山元町指令第90号 (浄化槽汚泥) 平成31年4月11日許可 令和3年4月12日まで	山元町指令第19号 平成31年4月11日許可 令和3年4月12日まで
名取市	名取市指令第157号 (浄化槽汚泥) 令和2年1月23日許可 令和4年2月14日まで	名取市指令第158号 令和2年1月23日許可 令和4年2月14日まで
岩沼市	岩沼市指令市民経済第184号 (浄化槽汚泥) 平成31年3月6日許可 令和3年3月31日まで	岩沼市指令市民経済第185号 平成31年3月6日許可 令和3年3月31日まで

● 浄化槽工事業

宮城県知事（登-27）第188号

平成27年12月12日登録 令和2年12月11日まで

● 建築物飲料水貯水槽清掃業

宮城県4貯第3号

平成28年11月2日登録

平成28年11月20日から令和4年11月19日まで

## (7) 施設等状況

バキューム車	4 t 車 (最大積載量 3700Kg) : 2 台
	4 t 車 (最大積載量 3500kg) : 1 台
	3 t 車 (最大積載量 3000kg) : 3 台
保守点検車	軽自動車 : 7 台
	小型バン : 2 台
高圧洗浄車	2 t トラック : 2 台
貯水槽専用車	2 t トラック : 1 台



## ●対象範囲●

当社のE A 2 1の取組対象範囲は、全組織、全活動です。

認証・登録番号 0 0 0 9 7 2 2

認証更新登録日 2 0 1 9 年 1 1 月 5 日

有効期限 2 0 2 1 年 1 1 月 4 日



エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号 0009722

※角田支店・白石営業所・柴田営業所共に他事業所に転送電話を設置させていただいており、社員の常駐はありません。

## ●事業計画の概要●

今年度も全社員、365日年中無休、社員全員が営業マン、取らない仕事は出来ない事を念頭に、仕事を受注する事を考えて毎日の業務を遂行します。

また、本年も計画的に新入社員増強を積極的に推進して参ります。

「最初から出来ないとは言わない。失敗を恐れずにまずやってみる。」の精神を忘れずに業務を推進していきます。



## ●環境目標と実績●

代表者による見直しの結果、エアコン及びLED照明の新設に伴い2018年度実績を基準に更なる削減目標を設定し、個別の目標として車種別の燃費目標や事故件数ゼロを掲げました。総排水量については、更なる目標を設定します。

また、その他に製品・サービス関連については浄化槽（小型合併嫌気限定）清掃時の濃縮汚泥の減量を更なる目標として設定し、グリーン購入、地域・社会貢献活動についても下記のとおり環境目標を設定します。

環境目標	2019年度目標 (2019年8月1日～2020年7月31日)
二酸化炭素排出量の削減	2018年比 1%削減 111,672kgCO2
電力使用量	2018年比 1%削減 4,906kgCO2
軽油使用量	平均燃費 通年 4.5km/ℓ
ガソリン使用量（軽車両）	平均燃費 12.75km/ℓ（通年13km/ℓ 夏冬期間（6,7,8,12,1,2月）12.5km/ℓ）
〃（バン）	平均燃費 12.25km/ℓ（通年12.5km/ℓ 夏冬期間（6,7,8,12,1,2月）12km/ℓ）
〃（ハイブリット車）	平均燃費 20.33km/ℓ（通年22km/ℓ 冬期間（11,12,1,2,3月）18km/ℓ）
安全運転管理	事故件数 0 件
廃棄物排出量の削減	2018年比 10%削減 1,127kg
総排水量の削減	2018年基準 現状維持 614kg
製品・サービス関連	浄化槽（小型合併嫌気限定）清掃時の濃縮汚泥の減量 予定引抜量15%減
	省エネタイプのプロワー設置を推進する。
化学物質（PRTR対象物質）管理	使用数量の把握・保管場所の施錠・在庫管理を徹底する。（※お客様の要請により害虫駆除等に使用する為、削減目標策定不可能）
グリーン購入	事務用品については、グリーン商品に限り購入する。
地域・社会貢献活動	2件以上/年

＊ ＊ 二酸化炭素排出量 ＊ ＊ 目標：2018 年比 1%削減

取組項目	基準値 2018 年比 1%削減	実績値 2019 年度	削減率	評価
二酸化炭素排出量削減	111,672 kg-CO <sub>2</sub>	115,780 kg-CO <sub>2</sub>	2.6%	×

◎二酸化炭素排出の主な項目

(単位：kg-CO<sub>2</sub>)

負荷 順位	取組項目	基準値 2018 年比 1%削減	実績値 2019 年度	基準値 差異
1	軽油	77,751	80,832	+3,081
2	ガソリン	27,952	28,804	+852
3	電力	4,906	4,864	-42
4	灯油	1,022	1,252	+230
5	ガス	42	28	-14

※ 当社は東北電力(株)より電力購入をしておりますので、平成 27 年度電力事業者実排出係数は 0.556 を使用しなければならないところですが、関連会社との整合性を図るために関連会社で使用しております代替値の 0.561 にて購入電力における二酸化炭素排出量を算出しております。

二酸化炭素排出量は基準年度値 111,672kg-CO<sub>2</sub>に対し、115,780kg-CO<sub>2</sub>と 2.6%増加という結果となり、目標達成する事ができませんでした。

内容としましては、最も負荷が掛かっている軽油が基準年よりも走行距離が増加した為、エコ運転等、削減の為の取組みを行ってりましたが、目標数値を達成することができませんでした。しかし目標燃費については、概ねクリアしており引き続き努力していきます。

ガソリン使用量についても、営業範囲の拡大や緊急対応件数の増加により、基準年度よりも走行距離が増え使用量も増加しましたが、各車種別・季節別に細かい目標燃費を設定し、月ごとの増減はありますが概ねクリアしており引き続き努力していきます。

電力・灯油・ガス使用量につきましては、気候変動によって冷・暖房機、給湯器の使用頻度が左右され削減に大きく影響しますが、今年度は 6 月に新型エアコンを新設し、7 月のエアコン使用による電力使用量が大幅に削減されたので次年度はより一層の削減に期待が持てると思われ、灯油使用量の削減にも繋がるかと思えます。



\* 軽油使用量 \*

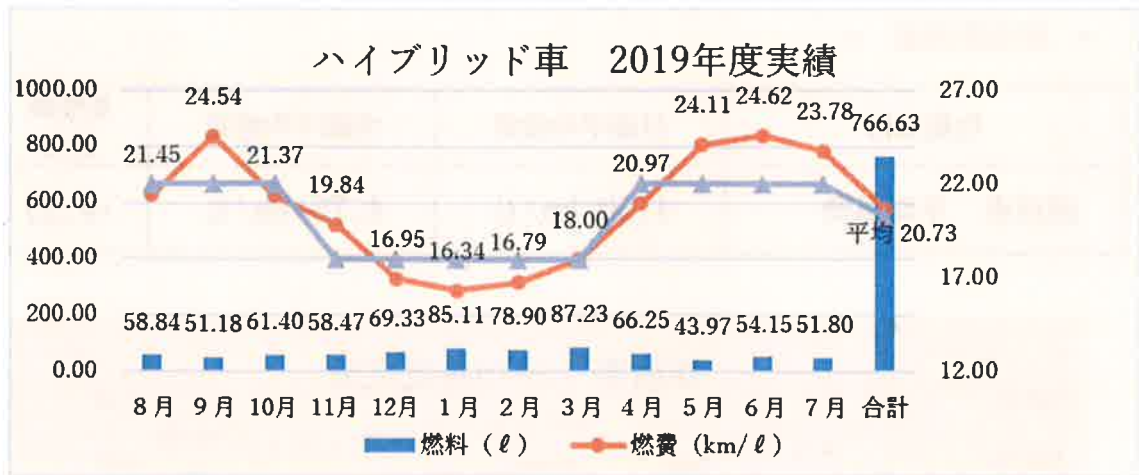
取組項目	目標平均燃費	実績平均燃費	基準値 差異	評価
軽油車 平均燃費	4.50 km/ℓ	4.75 km/ℓ	+0.25	○



軽油車輛の燃費については、目標燃費 4.5 km/ℓ に対し、実績燃費は平均 4.75 km/ℓ と目標達成することができました。各自エコ運転の取組と作業計画の段階で無駄な動きをしない様に作業地域をまとめるなどした結果、走行距離・使用量が減少しました。浄化槽清掃時の漲水に使用している散水タイマーは作業効率が良く走行距離の減少につながる為、継続して使用していきます。

\* ガソリン使用量 \*

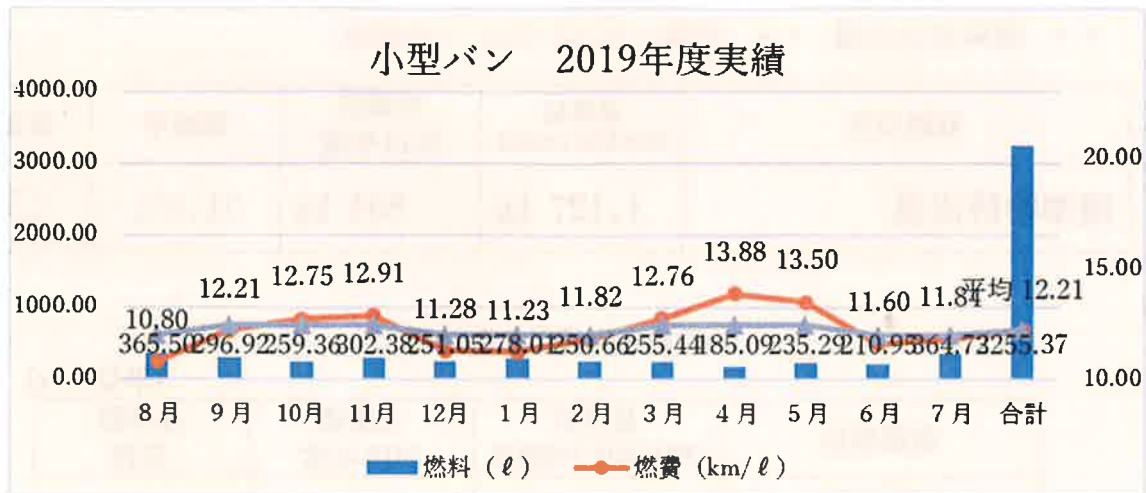
取組項目	目標平均燃費	実績平均燃費	基準値 差異	評価
軽車輛 平均燃費	12.75 km/ℓ	13.19 km/ℓ	-0.44	○
小型バン 平均燃費	12.25 km/ℓ	12.21 km/ℓ	+0.04	×
ハイブリッド車 平均燃費	20.33 km/ℓ	20.73 km/ℓ	+0.4	○



ハイブリッド車については、冬期間の暖房使用で燃費が低下しましたが、目標燃費 20.33km/ℓ に対して、実績燃費は 20.73km/ℓ で目標達成することができました。



最も使用量が多い軽自動車は毎月の月次報告時に見直しするなどエコ運転の取組みを実施してきましたが、夏・冬期のエアコン使用により燃費が低下しましたが、目標燃費 12.75km/ℓ に対して、実績が 13.19km/ℓ と目標達成することができました。



小型バンは冬期間の暖房使用等により目標燃費 12.25km/ℓ に対し、実績燃費 12.21km/ℓ と目標達成することができませんでしたが目標燃費との差が 0.04 とあと一歩であり、今後より一層のエコ運転を心がけます。

**\* 安全運転管理 \***

取組項目	目標値	実績値	基準値 差異	評価
事故件数 ゼロ	0 件	12 件	+12	×

#### 2019年度実績 事故件数管理表

車種別	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
ハイブリッド車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
軽自動車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
軽油車	1	0	2	0	0	0	1	2	1	2	1	2	12
合計	1	0	2	0	0	0	1	2	1	2	1	2	12

燃料の無駄使用防止に目標として設定した安全運転管理（事故件数ゼロ）につきましては、物損事故が 12 件発生してしまい、いずれも注意（周囲確認）をしていれば防げる事故であった為、安全確認と予測運転を心がけて運転するようにその都度周知徹底しました。事故車両はすべて軽油車であり、車体が大きいバキューム車等であるため、狭い道路への進入や、地面にぬかるみがある所への進入の際には、細心の注意を払うよう徹底してまいります。

**\*\* 廃棄物排出量 \*\* 目標：2018年比 1%削減**

取組項目	基準値 2018年比10%削減	実績値 2019年度	削減率	評価
廃棄物排出量	1,127 kg	854 kg	31.8%	○

◎廃棄物排出の主な項目

(単位：kg)

取組項目	基準値 2018年比10%削減	実績値 2019年度	基準値 差異
可燃ごみ	494	466	-28
資源ごみ	167	104	-63
不燃ごみ	151	83	-68
産廃ごみ	315	370	+55

廃棄物排出量は、基準年比10%削減値1,127 kgに対して854kgと31.8%減少し、目標を達成する事ができました。

今年度は、産業廃棄物を3回排出した為、産廃ゴミが増加してしまいました。それ以外のゴミに関しては分別の徹底やゴミを排出しないように心掛けるなど、削減の為の取組内容を個々で取組み、基準値より削減に至りました。

**\*\* 総排水量 \*\***

取組項目	基準値 2018年度	実績値 2019年度	達成率	評価
総排水量	614 m <sup>3</sup>	528 m <sup>3</sup>	14.0% 基準値差異 86 m <sup>3</sup>	○

総排水量については、基準年度値614 m<sup>3</sup>に対して528 m<sup>3</sup>と14.0%削減（86 m<sup>3</sup>減）する事ができました。

今期も洗車時に節水ノズルを使用し水圧調整と水の出しっぱなしを無くすなど、各々が積極的に節水に取組みました。基準年度よりも業務の減少で高圧洗車への給水が少なくなった為、大幅に削減となりました。





## ●環境活動計画の取組結果と評価●


環境目標を達成するために、次のような環境活動計画を策定し実施して参りました。

### I 二酸化炭素排出量の削減

#### ① 電力使用量削減のための対策

取組内容	成果及び評価
不要照明の消灯	<p>「使用後は消灯」の啓蒙シールを貼り、消灯の徹底をした。</p> 
照明器具	<p>事務所内のLEDライト化実施済</p> 
OA機器・家電製品の待機電力の削減	<p>長期使用しないものについては、電源をコンセントから抜くように徹底し、エアコンは使用しない限りブレーカーを落とす等、細目な取組を実施しました。</p>



取組内容	成果及び評価
冷暖房の温度管理 (冷房時 25℃、暖房時 20℃)	各暖房機器に設定温度シールを貼り、温度管理を徹底した。また、扇風機を利用して空気循環を良くした。 
冷暖房機器の清掃	エアフィルタ等の清掃を毎月 1 回実施した。
凍結防止用器具の電源確認 (12 月～ 3 月使用)	トイレ給水管の電熱ヒーター線及び高圧洗浄車凍結防止用投光器の電源確認。気温に応じて電源を入切した。

## ② 燃料削減のための対策

取組内容	成果及び評価
エコ運転の実施 アイドリング時間の削減 急発進、急加速はしない 経済速度の遵守	毎月全車の燃費報告をし、燃費が良い車と悪い車の違いを全社員で確認。 各々で具体的にどのようなエコ運転に取り組んだかを毎月発表し、周知徹底した結果、平均燃費の向上に繋がった。
月 1 回タイヤ空気圧の確認を実施	毎月の末日にガソリンスタンドにて確認実施した。



## II 廃棄物排出量の削減

### ① 廃棄物分別の徹底

取組内容	成果及び評価
<p>分別の徹底</p>	<p>事務所内・外のゴミ置場ともに、有価物になる紙ゴミと廃ブロー等の置場を設置し、分別を徹底した。</p> 
<p>廃棄物置場の整理</p>	<p>廃棄物の種類毎に整理（毎週木曜）と検量（毎週金曜）を行い、整理整頓を常時行っている。</p> 

### ② 紙使用削減のための対策

取組内容	成果及び評価
<p>コピー数量の削減</p>	<p>両面使用の徹底と必要枚数のみコピーするよう徹底しています。また、プリンターからの印刷についても両面印刷の実施やメール等を使用し、コピー用紙の使用量削減を実施している。</p>
<p>OA紙の資源化</p>	<p>使用済OA紙は有価物として処分するため、専用容器を設置し分別を実施しています。</p> <p>機密文書等は業者へ委託し、溶解処理後再資源化するように徹底して行っています。</p>

### III 総排水量の削減

#### ① 洗車時の節水対策

取組内容	成果及び評価
洗車をするタイミングを考慮する。	週1回の洗車は、天気の状態に応じて実施し、外水道全てに節水バルブへ交換し、洗車時はバケツを利用し、なるべく流しながらの使用はしないようにしたため、目標達成できた。
水の強さを調節	
細目に水を止める	

### IV グリーン購入法による物品等の購入

<p>事務用品については、グリーン商品に限り購入しています。</p> <p>各家庭においても、グリーン商品の使用促進。</p>
---

### V 製品・サービス関連

<p>省エネタイプのブロー設置を推進。各メーカーから情報収集し、より良い管理技術と水質の向上を図っています。</p> <p>また、清掃時の汚泥調整技術の向上も図っています。</p>
--

### VI 地域・社会貢献活動

取組内容	成果及び評価
顧客への浄化槽の使い方の啓蒙活動	<p>全ての新規契約顧客へ「地球にやさしい浄化槽の使い方」を配布しています。</p> 

取組内容	成果及び評価
<p data-bbox="268 286 568 320">地域清掃活動への参加</p> 	<p data-bbox="694 286 1390 360">会社敷地外のゴミ拾い、雑草の除去を全社員で行いきれいになりました。</p> <p data-bbox="694 389 1150 423">今後も積極的に実施していきます。</p> 
<p data-bbox="268 1328 448 1361">家族への啓蒙</p>	<p data-bbox="694 1328 1390 1402">全社員が家庭で、節電・節水・ゴミ分別を実施するよう月次報告会にて推進しました。</p>



## IV 教育訓練

### ① 浄化槽保守点検の教育研修（管理部）



浄化槽の保守点検の基本事項と新しい浄化槽への対応について、浄化槽メーカーより講師を招いた研修会に参加しました。

### ② 清掃担当者の教育研修（業務部）



小型合併処理浄化槽破損・補修の現状と適正な維持管理について、福島県浄化槽協会より講師を招いた研修会に参加しました。



③ 緊急事態対応の教育研修



客先灯油タンクから灯油流出時の対応処理について訓練実施・・・業務部・管理部



ポンプオイルストレーナの締め付け不良によるオイル洩れ対応処理について訓練実施

・・・業務部

## ●2020 年度以降の目標●

代表者による見直しの結果、長年続けている削減を目標とした環境目標は、すでに限界を迎えつつある為、次年度より二酸化炭素排出量を監視項目へと移行することとし、今後の動向をチェックしていきたいと思えます。

廃棄物等総排出量・総排水量に関しては以下の通りとします。

また、その他に製品・サービス関連については浄化槽（小型合併嫌気限定）清掃時の濃縮汚泥の減量を更なる目標として設定し、グリーン購入、地域・社会貢献活動についても下記のとおり環境目標を設定します。

環境目標	2020年度目標 (2020年8月1日~2021年7月31日)	2021年度目標 (2021年8月1日~2022年7月31日)	2022年度目標 (2022年8月1日~2023年7月31日)
二酸化炭素排出量の削減	2019年基準 監視項目	2020年基準 監視項目	2021年基準 監視項目
電力使用量			
軽油使用量			
ガソリン使用量(軽乗換)			
# (バン) # (ハイブリット車)			
安全運転管理	事故件数 0 件	事故件数 0 件	事故件数 0 件
廃棄物排出量の削減	2019年度基準 10%削減 769kg (-85kg)	2019年度基準 10%削減 769kg (-85kg)	2019年度基準 10%削減 769kg (-85kg)
総排水量の削減	2019年基準 現状維持 528㎡	2019年基準 現状維持 528㎡	2019年基準 現状維持 528㎡
製品・サービス関連	浄化槽（小型合併嫌気限定）清掃時の濃縮汚泥の減量 予定引放量15%減	浄化槽（小型合併嫌気限定）清掃時の濃縮汚泥の減量 予定引放量15%減	浄化槽（小型合併嫌気限定）清掃時の濃縮汚泥の減量 予定引放量15%減
	省エネタイプのブロー設置を推進する。	省エネタイプのブロー設置を推進する。	省エネタイプのブロー設置を推進する。
化学物質（PFR対象物質）管理	使用数量の把握・保管場所の施設・在庫管理を徹底する。（※お客様の要請により害虫駆除等に使用するため、削減目標策定不可能）		
グリーン購入	事務用品については、グリーン商品に限り購入する。		
地域・社会貢献活動	2件以上/年	2件以上/年	2件以上/年

### ◆二酸化炭素排出量◆

次年度は2019年度値を基準とし監視項目とします。

従来通り、毎月の月次報告にて全社員で動向確認します。

### ◆廃棄物排出量◆

次年度は2019年度の10%削減を目標で努力します。

### ◆総排水量◆

次年度は2019年度値現状維持を目標で努力します。

#### ◆グリーン購入◆

グリーン購入については、事務用品について全て担当責任者が確認のうえ発注を行っているので、昨年度と同様に「事務用品については、グリーン商品に限り購入する。」を目標とします。

#### ◆地域社会貢献活動◆

地域・社会貢献活動は2件以上/年を目標とします。また、社内においてもこれまで同様に月次報告会や一般教育研修等により全社員の家庭での節電・節水・ゴミの分別を実施するよう指導して参ります。

#### ◆化学物質の管理◆

当社の業務において、お客様の要請により害虫駆除等に使用する為、削減目標策定不可能な項目ですが、今後も使用数量の把握と在庫管理、保管場所の施錠の徹底に努めて参ります。

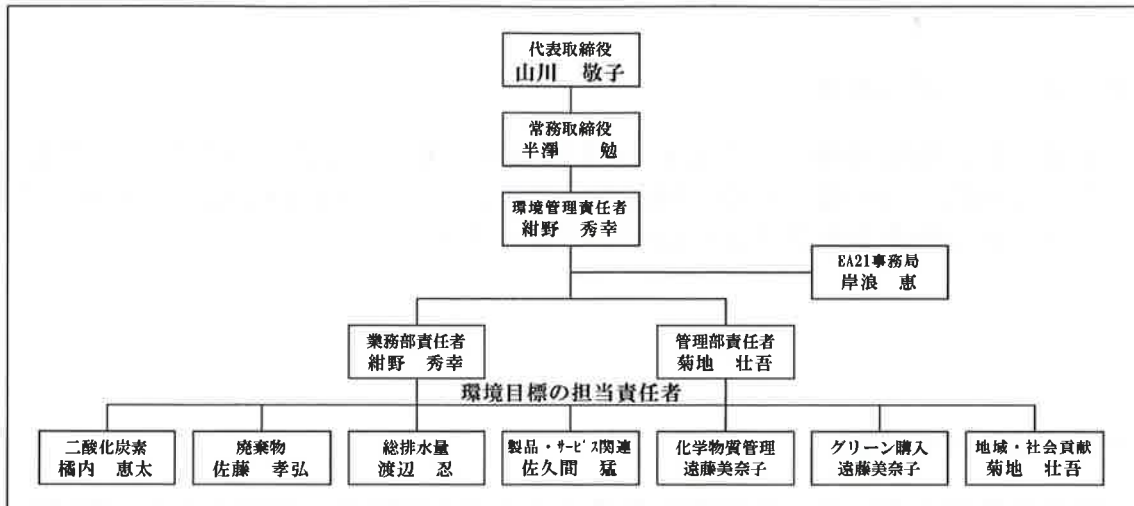
#### ◆自ら提供するサービス◆

当社の業務において、お客様の浄化槽よりきれいな処理水を放流することが使命ですので、新規顧客への浄化槽の正しい使い方の啓蒙活動の実施やブロワー故障の際に省エネタイプのブロワーへの交換の推奨を継続的に実施して参ります。

また、浄化槽清掃時の汚泥引抜量の減量化（漲水の削減）に努め、予定引抜量の15%減を目標として、清掃時の汚泥調整技術の向上を図っていきます。

## ●エコアクション21組織図●

当社では、代表取締役を最高責任者とするエコアクション21組織を編成し、環境に関する取組みを全社的に推進する為の体制を整えています。環境目標毎に責任者を配置し、環境目標及び環境活動計画を全社員に周知徹底を図っています。



## ●環境関連法規等の遵守状況の確認及び

### 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無●

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	法令等の遵守すべき内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	事業系一般廃棄物の適正な処理 産業廃棄物の適正な処理 一般廃棄物処理業（し尿・浄化槽汚泥）の許可、変更届出
浄化槽法	浄化槽保守点検の技術上の基準の遵守 浄化槽清掃の技術上の基準の遵守 浄化槽清掃業の許可、変更届出 帳簿の備え付け、記録の保存 浄化槽保守点検業の登録 浄化槽工事業に係る登録

毒物及び劇物取締法	毒物又は劇物の取扱 毒物又は劇物の表示
家電リサイクル法	対象機器の再商品化等実施義務
フロン排出抑制法	第1種特定製品（エアコン室外機）の簡易点検実施義務
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務
道路交通法	乗車又は積載の制限 整備不良車両の禁止 安全運転管理者の選任
資源有効利用促進法	PCリサイクル（廃棄パソコンのリサイクル手続）
環境基本法	地域環境美化の促進

環境関連法の違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去5年間ありません。

更に、2020年8月29日に自社で遵守状況をチェックした結果、問題はありません。

## ●代表者による全体の評価と見直し●

2011年にISO140001からエコアクション21に切替させていただいて環境経営を行っていますが、長年続けている削減を目標とした環境目標は、環境管理責任者のコメントにもある様に、もう限界を迎えてきています。

現場で使用している車両の新旧や増減、使用機材の新品化などが、社員の日々の環境を意識した行動による結果より、二酸化炭素排出量をはじめ多くの環境目標項目に多大な影響を及ぼします。次年度からは、まずは二酸化炭素排出量から監視項目に以降するべきだと思えます。ぜひ移行する様にしてください。

また、公式ホームページ内に、私たちの環境経営への取り組みを紹介するコーナーを開設しました。